

No. 94

2014年(平成26年)

11月1日

発行

浄土真宗本願寺派

和歌山教区日高組

責任者

片桐淨映



聞いてみんなせ
まことの道を
無理な教えじや
ないわいな
妙好人
六連島のお輕



日高組「子どもの集い」—キッズサンガ—

五濁とは、劫濁（こうじょく）（私たちの願いがいつも踏みにじられる時代の濁り）、見濁（けんじょく）（みんな自分が正しくて、他人が間違っていると思い込んでいる考え方の濁り）、煩惱濁（ぼんのうじょく）（自分の都合のよいようにしか物事を見ることができない迷いや欲望の眼の濁り）、衆生濁（みゅうじょうじょく）（みんなのことを考えず、自分の目先の利害にだけにこだわる人間が人間らしさを失う社会の濁り）、命濁（みょうじょく）（いのちの尊さを忘れ、自分のいのちも他人のいのちも粗末にするような濁り）の五つを言います。

『正信偈』の中に、如来所以興出世 唯説弥陀本願海五濁惡時群生海 応信如來如實言の四句が出てきます。これは、「如來がこの世に現われてくださった願いはただ一つ、阿彌陀如來の広大な本願を説くためである。だから、五濁惡時に雑草のように泥にまみれて生きるほかはない方々よ、おシヤカ様が大きな眞実を説いてくださった、そのことばを信ぜよ」、こう呼びかけておられるのです。特に、あとの二句は、五濁惡世に流れ流れて、私はどこへ行くのでしょうか。そのようない私に、アミダさまを信じ、よき人に遇え、そしてそのよき人が語つてくださる大きなまことの教えを聞きなさい、それが私を生かす力となつてくださつていると教えていただいているのです。説法の難とは、五濁の惡邪無信の盛んな時に説法することの難かしいことを顕わしています。また、経文に「一切世間難信の法」とありますが、菩薩までさえ難しい法を自力のところをひるがえして信じれば、これほど易しいことはありませんということです。自力を諒めて難信を易信の至極にすることを勧められるのです。

(永原智行)

阿
弥
陀
經
に
聞
く

「先生、地獄と極楽つてあるん？」
ふとした興味からか、お家の人から何か聞かされたのかはわかりません。私がお寺の人と知つてから知らずか、休み時間に数人の子がよってきて聞いてくれました。

「どう思う？」

「良いことをいっぱいした
ら極楽、悪いことをいっぱい
いたら地獄へ行くと思う」

「地獄ってどんな所？」

「閻魔大王に舌をぬかれる」「
血の池に落ちる」「針の山もあるで」「
熱いお風呂に入れられる」「手足をちぎられる」「死ぬことができない」

私が小さい頃、夢中で読んだ本にあつた通りです。子ども達に、大きなテーブルのご馳走の話をしました。

二つの部屋があり、そのつくり、人數、料理などどれも同じです。集まつた人

「地獄極楽」

たちの腕には、長い長い箸が縛り付けられています。ひとつつの部屋では、自分で食べようとして怒りと絶望感が、もうひとつの部屋ではお互いが食べさせ合い和氣あいあいの雰囲気があります』

「どっちがいい？」
「食べられるほうがいい」と笑つて答えてくれました。この話は、現実社会で、どのように生きるのか、そこで起きる出来事にどう向き合えばよいのかを教えてくれています。

親鸞聖人は、「無明煩惱われらがみにみちみちて、欲もおおく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむこころおおく、ひまなくして臨終の一念にいたるまでとどまらず、きえず、たえず」と、わたし達の本当の姿を見据えられていました。

「どっちがいい？」
「極楽のほうがいい」世の中のだれもが笑つて答えてくれることを願っています。

（北山憲昭）

す。心がけ一つで、「わたし」の周りが地獄にも極楽にもなるということです。常に感謝や思いやりの心を持つことの大切さを教えられます。地獄極楽は、あの世の話ではなくこの世の話なのだと思わせてくれます。



官製ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、所属寺、ご感想・ご意見等を明記の上、下記までお送りください。

〒649-1223

日高郡日高町小浦195
円行寺内 日高組事務所

※抽選で10名の方に粗品を進呈いたします。

※締め切り日
平成27年1月20日(必着)

※発表は次号

法 悅 ウ イ ズ

浄土真宗のお寺は何のためにありますか？

次の1~3の中から一つ選んで番号を書いてください。

1. 檀徒の先祖を供養するため。
2. 僧侶が修行する施設として。
3. 仏様のお心を自らの生きる依り所にしてもらうため。

93号の正解は、「1. お経の本は、畳に直接置かない」でした。正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。

由良町 中 美幸様	由良町 中崎工三コ様
由良町 尾崎 孝子様	由良町 濱口 直子様
由良町 岩崎 信子様	由良町 久保千代子様
由良町 畑中 宏之様	南丹市 佐々木磨美様
御坊市 塩田 廣一様	亀岡市 佐々木禮子様



妙願寺サマーキャンプタ涼みライブ

寺院活動の 新たな可能性

個人的なことですが、昨年十月にNPO-Kネットという非営利活動団体を立ち上げました。主要な活動は、「地域見守りサポート養成事業」と「ふるさと元気プロジェクト」の二つです。見守りサポートとは、災害時に援助を必要とする方の日常生活を日頃から見守り、その情報を入力してゆくボランティアのことで、データベース化された情報が災害時などに活用できるシステムを開発中です。和歌山大学のシステム工学部や経済学部の諸先生方との共同研究により、日高町の協力の下で昨秋よりサポートを養成し始めています。

ふるさと元気プロジェクトは、文字通り、地元ふるさとが元気で活き活きとした町となり、過去世に協力頂き、世代を超えて集う時空が持てるようになつたことです。夕涼みライブでは、「寺院といふ幻想的な演出(ろうそくの照明)やホールに近い音響に、非日常的な風景があり俗世間の利害を忘れさせる空間美があつたのではないかと思います。

そして何よりも、お寺にご縁の無かつた方が家族で気軽に足を運んでくれる機会ができるところで、地域の方々との距離が縮みつかることが実感できています。

寺院は、苦惱の衆生を一人も

寺族・僧侶だけでイベントを

考える必要はありません。総代漏らさず救い摂る阿弥陀のお慈悲をお聞かせ頂き、念佛行を実践する場ですが、それも多くの方に知つて頂かなければ始まりません。葬儀や年回法要などに求められている寺院活動とは何なのか」がうつすらと見え始めたような気がします。

この二事業に関わり、「社会の「仏事」のご縁だけではそれにも限度があります。

法要儀式や布教伝道の場はもちろんですが、イベント開催や遊び場として、社会のニーズに添つた活動を実践し、公益法人としての役割を果たさなければ若い世代や無関心の方に仏法を伝えていくことも難しい時代ではないでしょうか?

地域活性化という課題は簡単な問題ではないですが、まず寺院が活性化する必要があります。組内・教区内でも拙い寺以上に創意工夫され、様々な活動がなされている寺院もあります。

子どもを募つても在所に六名の小学生しかいない。でも、少ないからできないわけではないし、工夫次第では大勢の参加も期待できます。今回のキッズサンガも総勢五十名のうち、小学生以下の参加が十五名を超え、七名がテントで宿泊できました。ご門徒さんがほとんどだったことはいうまでもありません。

全国に八万ヶ寺ある寺院が少し重い腰を上げ、行動に移せば、可能性は十分にあると思います……。(楠原晃紹)

考へる必要があります。総代淨土真宗のみ教えに帰依する門徒にとつては大切な法要(集い)なのです。

親鸞聖人は、阿弥陀如来の願い(本願)のみ教えを明らかにされ、私達にその教えをお勧め下さいました。おかげさまで、私達は、み教えに出逢い、お念佛申す身となり、ご往生させていただけるのです。

近年はご家庭で「報恩講」をお勤めするご縁が少なくなりました。お寺によつては、ご門徒が一同に集う「総報恩講」としての形で法要が勤められている所もありますが、各ご家庭において報恩講のお勤めをお勧めします。一度ご院様と相談してみましょう。

なお、所属寺院や、近くの寺院では「報恩講法要」がお勤まりになりますから、ぜひお誘い合わせ参拝しましょう。

ご信心を得て、浄土往生する身とならせていただきこそ、親鸞聖人のご恩に対する報謝となるのです。

(鈴木悟峰)

門徒心得

「報恩講」

この地方では、この時期各お寺やご家庭で「報恩講」の法要がお勤まりになります。

報恩講は、親鸞聖人の三十三回忌の法事を起源として、毎年ご本山(西本願寺)では一月九日から十六日の午前中の七夜(お七夜)の間に法要が勤修されています。

それは、聖人のご遺徳をたたえ、ご恩を報いる法要です。その法要に参拝者が

集いますが、集まりを「講」

と呼ばれています。

淨土真宗のみ教えに帰依する門徒にとつては大切な法要(集い)なのです。

親鸞聖人は、阿弥陀如来の願い(本願)のみ教えを明らかにされ、私達にその教えをお勧め下さいました。おかげさまで、私達は、み教えに出逢い、お念佛申す身となり、ご往生させていただけるのです。

近年はご家庭で「報恩講」をお勤めするご縁が少なくなりました。お寺によつては、ご門徒が一同に集う「総報恩講」としての形で法要が勤められている所もありますが、各ご家庭において報恩講のお勤めをお勧めします。一度ご院様と相談してみましょう。

なお、所属寺院や、近くの寺院では「報恩講法要」がお勤まりになりますから、ぜひお誘い合わせ参拝しましょう。

ご信心を得て、浄土往生する身とならせていただきこそ、親鸞聖人のご恩に対する報謝となるのです。

(鈴木悟峰)

あじやせ 「阿闍世のすべて」出版 教専寺 永原智行住職



由良町
阿戸、教
専寺の永
原智行住
職（52）
が法藏館
から初の

著書「阿闍世のすべて 惡
人成仏の思想史」を出版し
た。

阿闍世はお釈迦様の時代
の王で、占いが原因で十七
歳の時に父を殺害、母も手
にかけようとするが、後に
改心してお釈迦様を支援す
るようになつた。

権力争いなどを理由に家
庭で起る悲劇は現代にも
通じるものがあり、阿闍世
の生涯を通じ、悪人でも成
仏できるという思想を考察
する書である。

永原住職は、大学時代か
ら阿闍世を二十年にわたつ
て研究し、その集大成とし
て一冊の本にまとめたもの
で「今年が教専寺創立五百
年で、長年研究してきた阿
闍世を世に出すことができ
てこれ以上の幸せはありません」と話している。

・第三ブロック門信徒総研
修会（聞法の集い）
和歌山教区主催 日高組
が運営担当を行つた。

九月二十九日（月）婦人
会はじめての試みで一日研
修旅行を行いました。参加
者は四十三名。行き先は、
海南組の冷水御坊・飯盛山
了賢寺でした。

紀州真宗の起源と称せら
れるお寺です。ご住職の松
本教智さまから、当時にま
で

日高組 仏教婦人会 研修会



つわるお話や、親鸞聖
人と蓮如上人の連座の
二尊会画像のお話、本
願寺八代宗主蓮如上人
が法話をなし『信心獲
得章の御文』一通を認
めて与えたお話をして
くれました。

また、寺院の宝物で
あります蓮如上人筆

『六字名号』『十字名号』
『正信偈二幅』『和讃
一首』等、拝見させて
頂きました。
(荻野益次)

キッズサンガ（子どもの声
が聞こえるお寺に）八月
二十三日（土）日高町小浦
円行寺で開催され小学生か
らお年寄りまで75名が参加
し、夏休みの良き思い出
くりとなりました。今回は
総代会より、専福寺門徒濱
出将俊氏（和歌山県レクリ
エーション協会副理事長）
に協力をお願いし、むかし
懐かしい竹製の水鉄砲づく
りを指導いただいた。また、
佛教婦人会の仏典童話読み
聞かせや楽しいレクリエー
ションなど、盛りだくさん
の内容で世代を超えて楽し
むことができました。

・日高組「真宗法座」開催
日高組第二回「真宗法
座」を次の通り開催いたし
ます。
日時 十二月十四日（日）
会場 教専寺（由良町阿戸）
講師 釋 徹宗師
どなたでもご参加いただ
けます。お誘い合わせご参
加下さい。

☆行事報告
・日高組総代会第二回念佛
奉仕団
七月七日～八日 三十六
名で参加し、内七名が帰敬
式を受式しました。

第三ブロック（紀南組・
御坊組・日高組）門信徒總
研修会が八月三十日（土）
日高町保健福祉センターで
開催され260名の門信
徒・僧侶が集いました。
研修会では、「願わくは
この功德をもつて・・・」
と題して東海教区三重組正
覚寺住職内田正祥師よりお
話を聴聞しました。

日高組通信

